

計画の名称	栃木・群馬における魅力的な資源を活かした広域的観光活性化計画(重点)											
計画の期間	平成31年度 ~ 令和04年度 (4年間)										重点配分対象の該当	○
交付対象	栃木県											
計画の目標	栃木群馬交流圏域（栃木県日光地域、栃木県及び群馬県にまたがる両毛地域、群馬県中毛・利根沼田地域）においては、「日光・会津・上州歴史街道対流圏の強化プロジェクト」や「北関東三県広域観光推進協議会による連携事業」に取り組み、観光振興による交流人口の増加を図っている。 日光・会津・上州歴史街道対流圏では世界遺産である栃木県の「日光の社寺」等の歴史的建造物や「尾瀬ヶ原」等の豊かな自然環境、「鬼怒川」等の温泉が集積しており、これらの国際的な観光コンテンツを活用した広域観光周遊ルートの創出を目的とするプロジェクトである。外国人に好まれる純日本的な地域資源を最大限活用し、特に2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けてプロジェクトを推進するよう掲げられている。 栃木県においては日光市を中心とし、群馬県及び福島県との観光周遊に関連するインフラの整備、群馬県においては栃木県日光市を結ぶ広域観光周遊ルートの整備や大型コンベンション施設の建設を推進する。 本計画では栃木県と群馬県の広域観光周遊ルートの整備を行い、高規格道路（関越・北関東・東北・日光宇都宮）等で形成される広域交通ネットワークによる周遊観光を促進させ観光集客に向けた更なる観光活性化を図る。											
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	640	A	640	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	0 %

番号	計画の成果目標(定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (H28)	中間目標値	最終目標値 (R4)
1	【栃木県・群馬県 共通目標】 観光入込客数1,138万人(H28)から1,745万人(R4)に増加 (607万人(53.3%)の増加) 【栃木県・群馬県 共通目標】 観光入込客数 (観光客の増加割合) = (評価時点の観光客数 - H28の年間観光客数) / (H28年間観光客数)	1138万人	万人	1745万人
2	【栃木県 単独目標】 観光入込客数990万人(H28)から1,410万人(R4)に増加 (420万人(42.4%)の増加) 【栃木県 単独目標】 観光入込客数 (観光客の増加割合) = (評価時点の観光客数 - H28の年間観光客数) / (H28年間観光客数)	990万人	万人	1410万人
3	【栃木県 重点目標】 観光入込客数249万人(H28)から354万人(R4)に増加 (105万人(42.2%)の増加) 【栃木県 重点計画目標】 観光入込客数 (観光客の増加割合) = (評価時点の観光客数 - H28の年間観光客数) / (H28年間観光客数)	249万人	万人	354万人

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	○	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H31	R02	R03	R04	R05			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
広域連携事業	A11-001	道路	一般	栃木県	直接	栃木県	国道	改築	(国)120号 清滝工区	現道拡幅 L=2.4km	日光市						540	-	
	A11-002	道路	一般	栃木県	直接	栃木県	国道	改築	(国)122号 神子内工区	現道拡幅 L=0.3km	日光市						100	-	
											小計						640		
											合計						640		

交付金の執行状況

(単位：百万円)

	H31	R02			
配分額 (a)	90	0			
計画別流用増 減額 (b)	0	0			
交付額 (c=a+b)	90	0			
前年度からの繰越額 (d)	0	0			
支払済額 (e)	32	0			
翌年度繰越額 (f)	58	0			
うち未契約繰越額(g)	0	0			
不用額 (h = c+d-e-f)	0	0			
未契約繰越率+不用率 (i = (g+h)/(c+d))%	0	0			
未契約繰越率+不用率が10%を超えている場合その理由					

(備考-1) 整備計画関連事項

計画の評価の実施予定		
事後：平成36年3月予定		
拠点施設・重点地区		
拠点施設	二社一寺	
関係都道府県との連携の内容、進め方		
連携内容	首都圏広域地方計画「日光・会津・上州歴史街道対流圏の強化プロジェクト（No. 4-8）」の推進に向けて、群馬県、栃木県が共同で観光振興及び地域活性化を図る。	
進め方	両県の担当者が集まる会議等を開催し、取り組み状況に関する情報交換や今後の方針について検討を行い、周遊観光ネットワークの強化を図る事業を推進する。	
事業概要		
整備方針		整備方針に合致する主な事業
①	拠点施設へのアクセス時間を短縮させ、周遊効率性を高める	(基) 現道拡幅 2箇所
(参考) 交付対象事業に関連して実施される主な事業		
・栃木・群馬における魅力的な資源を活かした広域的観光活性化計画の交付対象事業（事業主体：群馬県 事業期間：平成30年度～平成34年度）		
・東北自動車道スマートICアクセス整備事業（矢板北スマートIC、都賀西方スマートIC、大谷スマートIC、出流原PAスマートIC）		
その他		
(広域的地域活性化のために連携して実施する施策)		
・首都圏広域地方計画（プロジェクト4-8）（計画主体：栃木県、群馬県、福島県、計画期間：平成27年～平成37年）		
連携内容：栃木群馬交流圏域では世界遺産である栃木県の「日光の社寺」及び群馬県の「富岡製糸場と絹産業遺産群」をはじめ、各地域に歴史的建造物や豊かな自然環境、温泉等が集積している。「日光・会津・上州歴史街道対流圏の強化プロジェクト」はこれらの国際的な観光コンテンツを活用した広域観光周遊ルートの創出を目的とするプロジェクトである。特に外国人に好まれる純日本的な地域資源を最大限活用し、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けてプロジェクトを推進するよう掲げられている。栃木県においては日光市を中心とし、群馬県及び福島県との観光周遊に関連するインフラの整備を実施する。本計画では栃木県と群馬県の広域観光周遊ルートの整備を行い、観光集客に向けた環境整備等を推進する。		
・地域未来投資促進法基本計画との連携（計画主体：栃木県、計画期間：平成28年～平成32年）		
連携内容：県域版DMOの活動促進や、観光客の周遊性・滞在性の魅力向上に併せて、関連する拠点施設の観光周遊ルートの確立を図る。		
・両毛広域都市圏総合整備推進協議会（計画主体：栃木県、群馬県、計画期間：平成4年～）		
連携内容：「両毛広域都市圏総合整備推進協議会」は栃木県と群馬県にまたがる両毛地区（栃木県佐野市、足利市、群馬県太田市、桐生市等）における広域的・一体的な都市づくりを推進する協議会であり、県境を越えた地域間の観光交流や公共施設の相互利用等のまちづくりを行っている。本計画では関連するインフラ整備により「両毛広域都市圏総合整備推進協議会」の観光交流活性化の支援を行う。		
・日本風景街道の取組（計画主体：栃木県、群馬県 計画期間：平成17年～）		
連携内容：日本風景街道は、郷土愛を育み、日本列島の魅力・美しさを発見、創出するとともに、多様な主体による協働のもと、景観、自然、歴史、文化等の地域資源を活かした国民的な原風景を創成する運動を促し、地域活性化、観光振興に寄与することで国土文化の再興の一助となることを目的としている。栃木県においては日光街道が日本風景街道に該当し、日光市における良好な景観の保全・育成を実践することにより、地域の活性化、観光振興、良好なコミュニティの形成に寄与することを目的とする。本計画では関連するインフラの整備により日本風景街道の取組の支援を行う。		
・とちぎ観光立県戦略の取組（計画主体：栃木県 計画期間：平成28年～平成32年）		
連携内容：本戦略は県内の観光による消費を高め、観光産業を活性化させ、県内の観光入込客数を8,712万人（H26）から9,200万人（H32）に増やすことを目的としている。戦略の一貫として観光立県とちぎプロジェクトが掲げられており、誰もが安心して快適に観光できる旅行環境のインフラ整備を推進している。本計画では群馬県と栃木県を結ぶ旅行環境のインフラ整備を実施することにより「とちぎ観光立県戦略」の支援を行う。		

(備考-2) 参考図面 (社会資本総合整備計画 広域連携事業)

